

子

集

卷

一

特別
~13
363.3
1





本草 卷之十三

本草 卷之十三

13  
623  
卷

本草 卷之十三  
本草 卷之十三

蓋 余 年 十 四 五 時 既 得 知

其 遊 而 知 太 夫 而 知 引 舟

雛 妓 之 辭 又 知 傾 城 町 之

大 必 有 若 人 而 出 乎 數 千

年 之 間 也 不 在 異 國 其 在

本草 卷之十三

昭和二十二年六月八日  
宮川曼太郎藏

本草 卷之十三



此乎コニ非アラスン我之ワガ古則イニレヘニ在シカ于ニ今イニニ  
 乎ノチ後ス數ジフ十チン年ヨ余キタリ來アゲ于ヤ楊屋ニ  
 乃スナハチ始ハシメテ見ミル太夫タ於ユウヲ某之ソレガレノ所トコロニ太タ  
 夫業ユウ已ス全盛ゼンセイ如クモノゴトシ雲レ四ホツ方ホツ之ニ  
 客接キヤクツク踵クビスラ最サイ後ゴ獨ヒトリ得エテ陽ヨウ腎ジン男ナンヲ  
 而シテ驩ヨロコブ矣ヨロコブ則トキハ遂ツイニ令モウ罔ロクヲ祿コウ抗コウ  
ムルモハ下ニ

衡コウ於セン全盛セイ之ノ粹スイニ者ハ太夫タ邪カ  
 非ヒ邪カ腎ジン男ナン邪カ非ヒ邪カ則カ雖スナハチ不ユトヒ  
 盡ズト腎ジン男ナンヲ哉ナシ是コレニ亦タ太夫ユウナルカナ哉タ  
ズト

承露王人題  
ジヨウロ レユ レシ タニス

本草提要 叙



本草妓要敘



金之可溜而足以死苦者必嗇甫之  
カ子ノ ベクレテ タム タル モツテ シスルニクニ モノハカチラスニハンボノ  
 事也其次始末之事也余於渡世既  
コトナリ ソツギハ レニツ コトナリ ヨ ラヒテ ト セイ ニス ス  
 無所窺竊謂妓邑之遊雖無助于  
ナレトコロウカ フヒソカニ アモフ ギ ユウ アソビ イハレ ナレト タス テ  
 身臺家督之固然能善人付合療人  
シ ダイ カト ク ノ カ タ ニ シ カ レ モ ヨク ヨク レ ヒト ノ ツ キ ア ヒ ラ リ ヤ ウ シ ヒ ト  
 初心酒可令旨歌可使妖無為祝言  
シ ヨ シ ラ サ ク ム ベシ シ ム ム カ ラ ウ タ ハ ベシ シ ム ウ ツ シ カ ラ フ ン ス ル コ シ ウ ケ シ ラ  
 而能有識夫婦之塩梅不為慇懃有  
ヨク アリ シ レ コ メ ウ ト ノ ア シ ン バ イ ラ ズ シ テ セ 子 シ ン ロ ラ ア リ

本草妓要序



窮色事之奧義言不隨野父之譏用  
キムルイロゴト ヌラウギヲコトズヲチ ヤボノソレリヨウ  
有至此道之粹家業商買之外或可  
アリイタルヲロノミチノスイニカゲウ シヨクバイノホカアルハハレテ  
以愧小謠而勝猶粹也乎初則謂妓  
モツテハツ コウタヒヲ タメテナラスイノカ ハシメハスナチヲモアギ  
遊與慇懃不同忍戀當有真實手管  
ユウト シンゴロ スラナレカラ レンベルコヒハニサヒアル レニジツ テグダ  
不欲輕施若妓遊所以使金使錢自  
ズ ホツセ カロシシホトコスヲギ ユウノ ユヘナリツカヒ カ子ヲツカヒセニヲミタ  
樂無酒不興無歌不娛恣情極態不  
タシムナケバサケズ ケウゼナケバウタズ タシレニ ヒレヨクキタタイラズ  
遺餘念苟色道之可觀倘不至諸訣  
ノコサヨ シンヲニトニキタウノ ベキミルモレクハサラニイタラシヨク

之未熟也乎  
ノ ミユクニカ

交喜甲戌歲陽月望賢男陽書于  
カウ キ ムウ ジュツ ホレ ヤウ ゲツ ボウ ジン ナン アウ レヨス

燕譚堂  
エン タウニ



本草妓要凡例

一凡妓之美惡真偽固漂客之所當

識辨妓不真美苟不可買譬如白

人祇園町島内産爲真未熟素人

者爲美下品下劣者爲惡稱新地

中白者爲偽物即是賤妓之類也

諸如此類不可救擧今用賤妓之

本草 妓要 凡例



類而謂用白人肉尚不美而歸咎

於妓物既非真宜乎肉之不美也

此漂客之識妓所以最為先務也

一是書不錄氣味何則以妓之美惡

不由氣味也神農本草所謂氣者離逢

振懸也味者户立土器章魚津也

如太夫天神耽之身上覺寒賤妓

物嫁當肌即識冷白人藝子之甘

花車之辛中居之鹹是已此其氣

味尤著者也

一凡妓女自江口神寄始列二百六

十五人島原吉原新町亦同其數

以來白人湯女靜女挑者諸家妓

品漸增至二千餘種妓之可買者



不可<sup>ズ</sup>勝<sup>ベカラ</sup>舉<sup>シヨウ</sup>今<sup>キヨ</sup>唯<sup>イニ</sup>取<sup>タ</sup>遣<sup>ト</sup>繚<sup>トル</sup>尤<sup>ル</sup>著<sup>シ</sup>耳<sup>ニ</sup>

陽<sup>ヤウ</sup>賢<sup>ケン</sup>男<sup>ナン</sup>識<sup>シ</sup>

本草<sup>ホン</sup>妓<sup>キ</sup>要<sup>ヨウ</sup>目<sup>モク</sup>錄<sup>ロク</sup>

太<sup>タ</sup>夫<sup>フ</sup>白<sup>ハク</sup>人<sup>ジン</sup>賤<sup>ケン</sup>妓<sup>キ</sup>

天<sup>テン</sup>神<sup>ジン</sup>藝<sup>ゲイ</sup>子<sup>コ</sup>惣<sup>ソウ</sup>嫁<sup>カ</sup>

已<sup>イ</sup>上<sup>ジョウ</sup>六<sup>ロク</sup>品<sup>ピン</sup>

引<sup>ヒキ</sup>舟<sup>フネ</sup>

雛<sup>カブ</sup>妓<sup>ロ</sup>



六妓類

端女ハレシヨ 臙ロウ

靜女コソ

月切ツキガコヒ

已上七品

湯女ユナ

比丘尼ヒクニ

舞子マヒコ

舟饅頭フナミンチウ

中居ナカイ

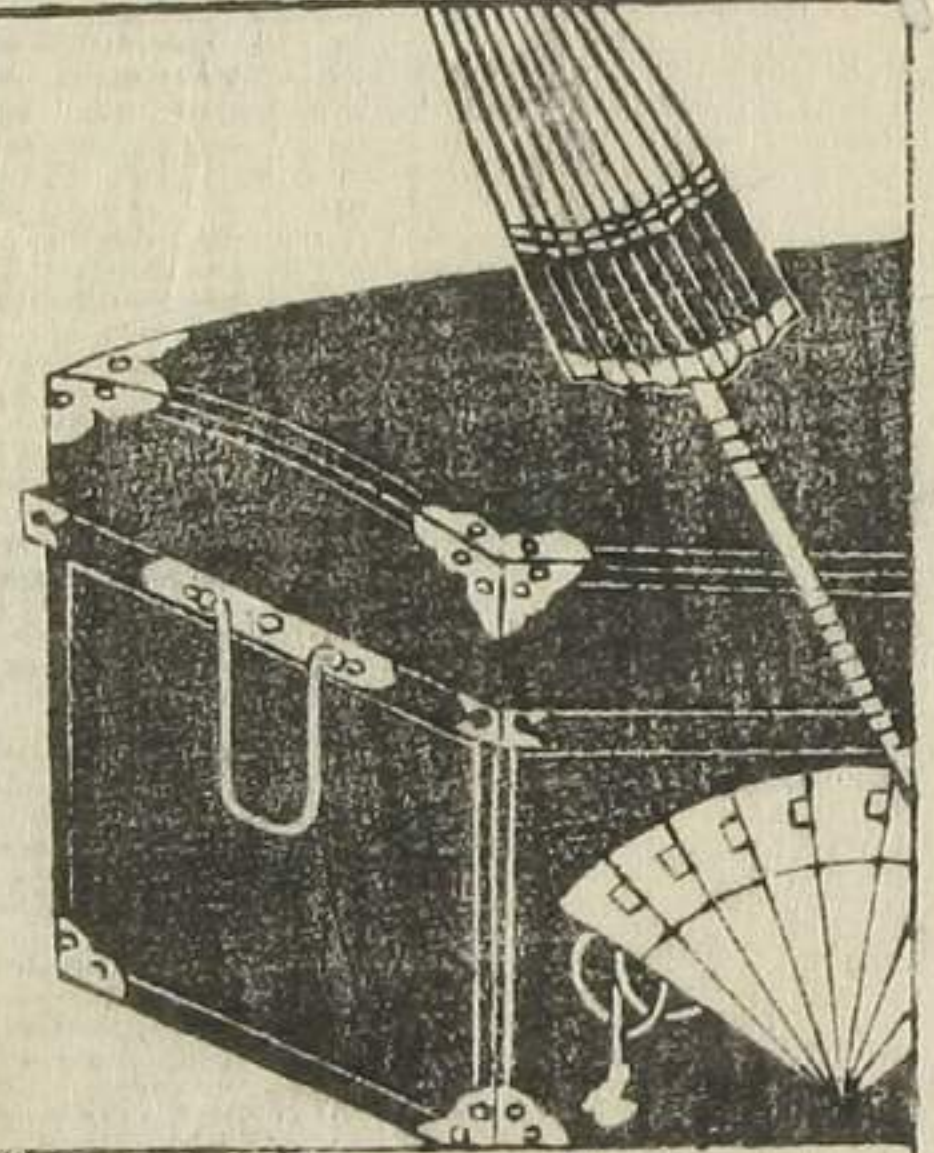
已上五品

冶郎ヤロウ

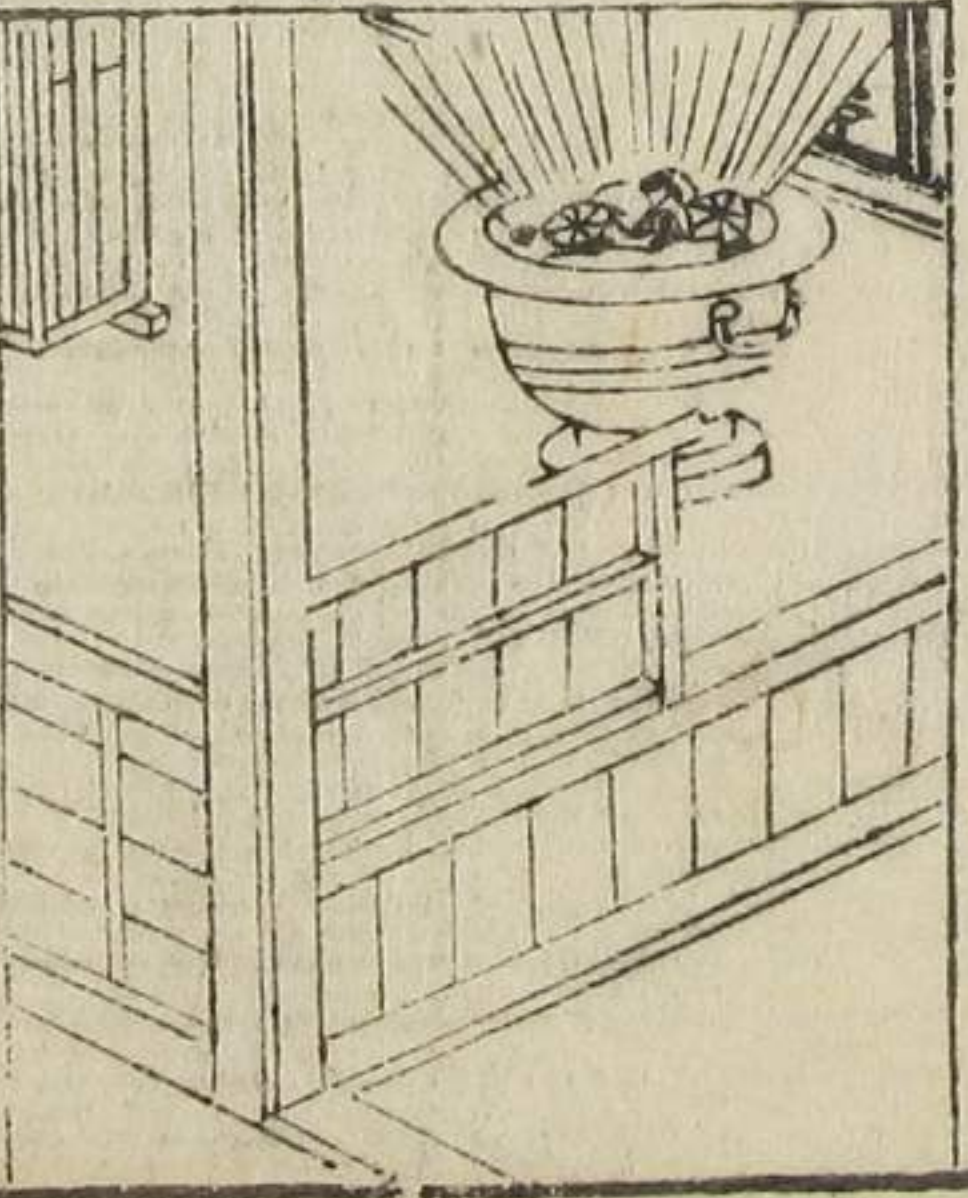
螢妓ホタル

六妓類附畧

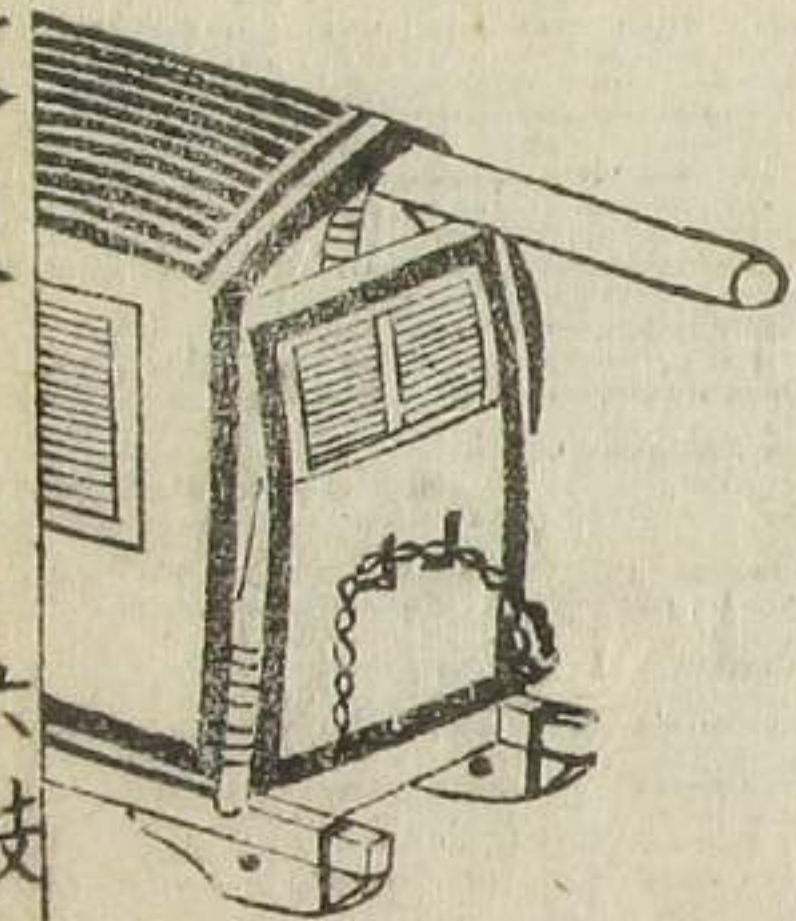
太夫



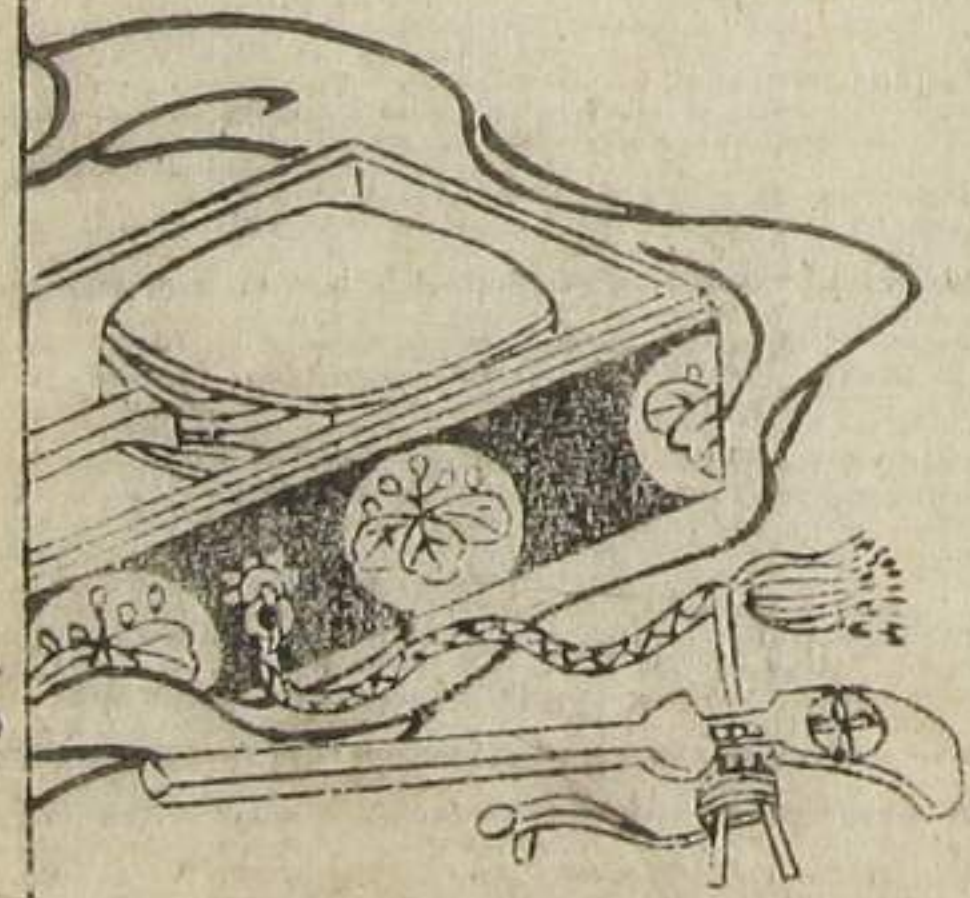
天神



白人



藝子



本中支原

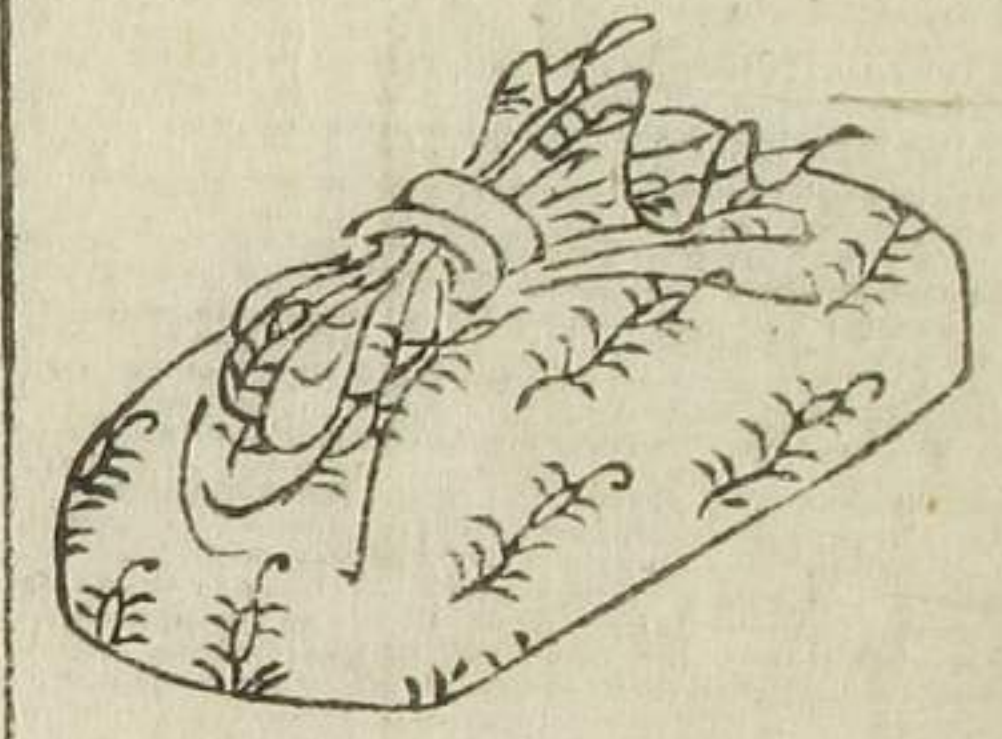
六妓附圖

六

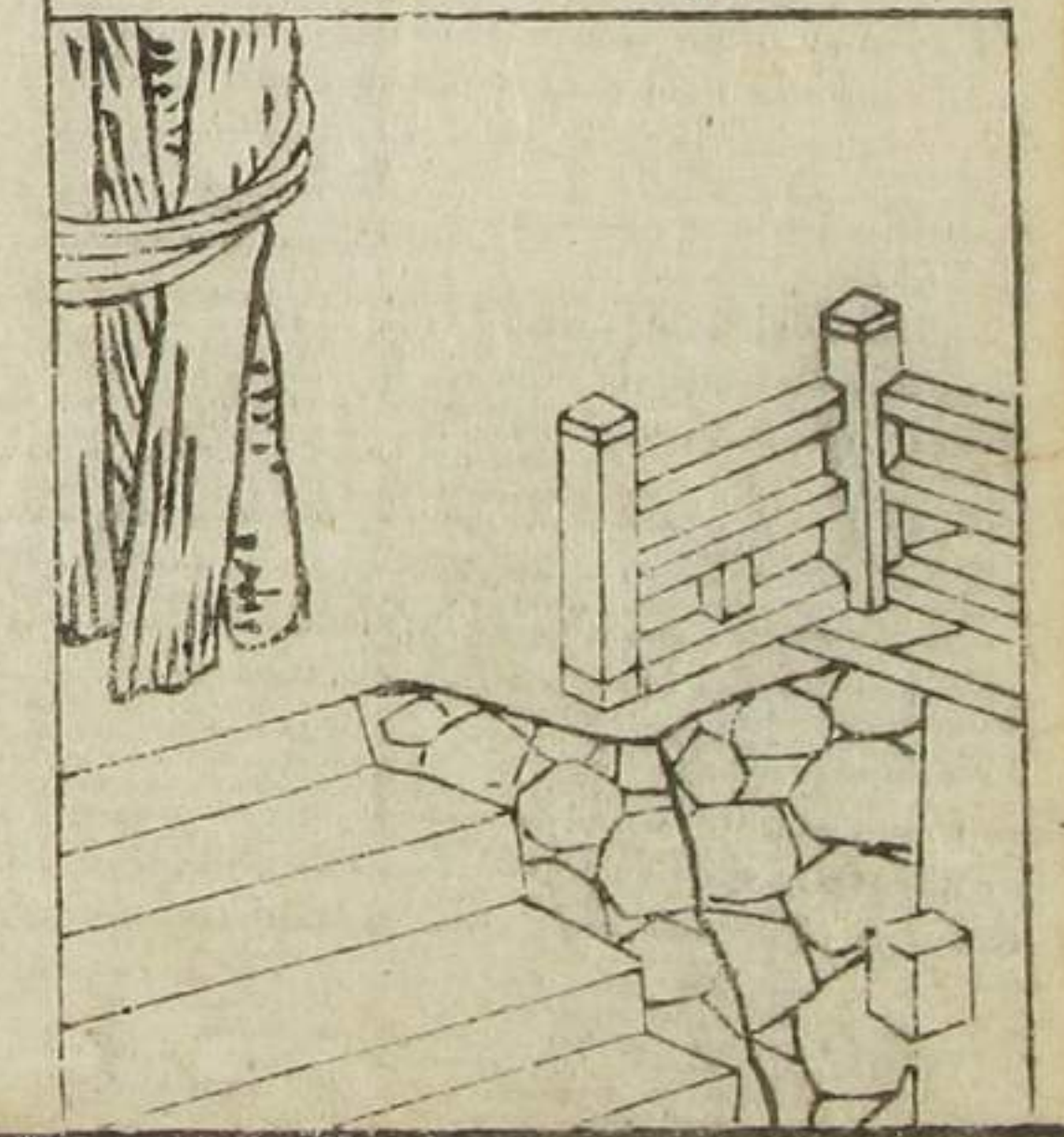


本朝妓要

妓賤



嫁惣



本朝妓要

巫山

陽腎男選定

太夫

太夫

主治

大様

令子

能座

敷付

療

下卑下劣之人品實為百妓中之

第一高品

審擇

凡擇

太夫

不拘

蒼騶

但以上

等妓而手鍊諸藝雖倍王侯貴人

本章 妓要 太夫



松位

不耻者サルハチモノヲス為カントミツテケイ准ニ以レ京師島原所産者ニ爲ニ上出浪シヤウトイヅル者ニ亞ツグ之コレニ用時迎于揚モチユルトキムカス屋窮約束ヤクソクヲモツテ以ニ懇丹付合ツキアヘ任使ニ一應レ坐切アルヒ或自期期迫等制皆不用也ワリゴゴマテトウセイミズモチヒ

一名松位イチメウマツノクラヒ

集解シツカイ李時珍リジチンガ本艸綱目引山崎與ホンソウカウモクニイテヤマザキヨ

次兵衛日其所而請出三百兩予ジベイイハクソツコデツケグセサンヒヤクヨウヨ

於是ライテコニ有アリ歎嗟夫廉哉アソレレンナルカナ妓價也コヤ較之タクラレバ

今妓價雖年高年前之白人不能イニンキコニイヘトシマ子ニヘハクジンサルアス

盡全盛者亦有此價是以古之妓ツクスコゼンセイヨモトニダアリコノアタヒコヲモツテイニヘノギ

價不言而可知也雖至今之全盛コズノイハヘレシレイヘイタツテハイメゼンセイニ

則又有異之者但恨奪功於白人スナハチマダアリトコトナルコレニモノタ、ウラムラクハウバロコマラハクンニ

輸位於古昔一籌此無他彼島原ユスルクラヒイニレヘニインチクコンナシタカノレニハラ

新町之不景氣臻家具夜具シンマチノケイキイクルミテカグヤグノナシイ陳敗及チンバイイ

本草 妓要 大夫



往來不掃除格子先之犬糞座敷  
疊之茶褐色而知與不知皆掩淚  
甚則鏽壁之大疵雪隱之蜘蛛巢  
草履半足手水鉢之孑々虫后燈  
籠之無蓋皆是久三之廉給銀與  
亭主之懷手之爲而非效之所知  
也嗚呼曾參殺人公冶長在縲紲

天神

天神

王治肥日高氣與太夫大挽

何堪大息痛歎乎蓋稽古之全盛  
則椀父擲豆板於節分光西聲奢  
於高砂屋羊羹當此時也名妓代  
出全盛交競車長持積上於大道  
可借音聒於中戸大率諸州妓邑  
之全盛以此推知則思過半矣

本草表五女 天神



落太夫

回此邑之衰微

審擇凡擇天神以風致體格稍似

太夫者為佳其富口舌長懇丹固

不待言用時迎于酒樓共醉共倒

而任使一種又妓舖有呼稱太夫

落者此品間有上等須擇用又呼

天職

集解今唯單謂天神而無大小之

分名按素問新道成寺論有西方

者太夫天神引舟于禿端女臈之

語由是觀之天神本一品而古以

其價貴賤強分之已唐慎微妾類

本草曰小天神較諸大天神不啻

避三舍此說固穿鑿詭附不足據

大章 支 五 天 神

十

引舟 禿端女 即

小天神 大天神



本館

信何則自太夫觀之シスルニナレバヨリ豈有大小之ニレバコレヲアニアラヤダイセウノ

異乎若又大天神以イモレニタラ、テン、レニモツテコテン、レンヲスルハサル小天神為不チカヒ

如我者亦不免同天神之號レカワレニモノトマダガラシメヌカシヨナレラユ而已ガウヲノミ

同浴ヨナシクヨクヲソルラ譏テイヲ倮體ユウシヨクノクシレナシジシスルニコレヲ有色ヲナシクユスビテハダカミ君子何忍為之ハダカミ

乎哉

白人

白人

主治シユヂ主間夫役者ツカサトニ、フニシヤクシヤラヒウバンシゲキ、ジヨウヲ評判ニ劇場シバ

威嚴イゲン初相見シヨ如粹レヨウケンヲゴトクニリス、ゴトクニスルコラミ、シゲク如未熟レヨウケンヲゴトクニリス、ゴトクニスルコラミ、シゲク

審擇シユツク凡擇白人ラヨクニ以乘駕籠ヲモツテノセカニ踏物ニ

送酒樓者フクニエ、ロウニモノラス為真用時シントモチユルトキ酒浸刻細サケニヒケシキ、サニニカヌモテ以

京師祇園町ケイシキギョウチン所產者トコロサスルモノラス為上出浪トイッルロウクハニ巷ニ

者亞之モノツグユレニ

集解シツカイ白人者ハ本妓中之至極上品モトギチウ、シゴク、シヨウ、ヒシ

性味平穩セイミ、ハイ、ヤン、カン甘美ヒ未熟シユク素人者シロウトナルモノナリ也固モ、シ

非銜妓之隊伍ス、ケ、キ、ノ、タイ、ゴ、ニ轉素為白テ、ソ、ヲ、ス、ハ、リ、ト、カル、ガ、ニ、コ、ウ、セ、イ、レ、ヒ、キ故後世レ、ヒ、キ

素人

本館



中白

通爲白人モウフウシ孟夫子嘗論之曰白馬ハクシ之白也無以異於白人之白也然シロキト而今之白人者大異之仕替諸方シカモイフ熟鍊此道何未熟素人之謂乎又シロキト一種有稱中白者下品不足用方ヒトシナ有執傷寒條辨中白下日傷寒論シロキト編成王叔和叔和脈經白上無中シナル

字由是觀之中白後人之設明矣ジ

故不取也ニズ

藝子

藝子ゲイ

主治

王習時花曲見合子間シユ

審擇凡擇藝子以歌調三絃妖冶シユ

者爲准用時漸々通屈而刻細臨モノヲ

早卒間則枕三味線箱或唾壺又ソク

稱無色シヤク



本直

集解ケイユ藝子之功專在座敷凡用為ソモルニ

彈ヒカ三味線而游如閨中非馴染逢ニヤミセシヲ

者難用一種有稱有色藝子者固モノニガタシモチヒイツレユ

別種而非此物故不用遇關或亦ビツレユニノ

可用若然則務擇能三絃者可矣モチユモシレカラズ

○禮記月令云孟春月藝子化成ライキノグハツレウニイハクニウ

白人嗟夫物之變也哉小女郎化ハクシトアハソレモノ、

成中居女郎化成轎夫之妻溜々ナリナカイトヨロウケソナルキヨウフ

者皆是難推而知之博古君子請モミナレナリガタシヲミテ

致思焉イタセヲモヒラ

賤妓

賤妓ケンタン

主治下劣人品失本分之性シユヂゲ

審擇凡擇賤妓以大朴忍出之類シムダク

為上用時合擾薄蒲團聽使此物スジョウトモチユルキアハサカキセテウスキフトンニ

有上中下三等如出京師者新地アリジヨウチウゲノサントウ

本草 妓女 賤妓



北野繩手螢妓之類不可枚舉其  
他諸州亦然不暇一々分辨

集解賤妓常應朽腹貧漢之索以

故父服則陷借錢之淵遂坐心中

臺者指殆以千百不可屈按落客

居類書引妓譜日游女古口河竹

又曰流身是即漂浮於墨染陸沈

於木辻之謂也以是觀之今之仕

替諸國遂銜于開帳場之小屋掛

者乎不獨賤妓之類雖太夫天神

以間夫虫入之痼疾多不免此套

是即不由正妓路不明實色學故

多為深間所惑不覺永陷苦界而

不得脫矣甚者鮑魚之肆井底之



本館

蛙不知香與大而與惡毀善反噬

殆及多見其不知量也當局者迷

旁觀有眼况就粹學而正之乎虛

實遣繅尤不可不慎矣○郭僕註

妓雅日間短即契短音轉也然而

命名欠當若以坐切遊為間短乎

則白人藝子非坐切遊乎何獨在

契短

間短

間短也故姑稱賤妓以俟他日之

改正耳

惣嫁物

主治主發瘡痛骨節稟寒濕

審擇凡擇惣嫁以清新熟實無臭

氣者為佳用時伴下濱納屋引張

于筵而任使凡鼻聲瘡搔鴨步等

制不可用又舟賣者日舟惣嫁又

舟惣嫁

本草

惣嫁



伴遣 迂君 夜鷹 一名 夜發

呼稱伴遣物惣嫁イニシヘ古昔稱迂君東韻セウスケツチキニトウツト

之間稱夜鷹又日夜發アヒタセウシヨタカトマタイフヤホツト

集解朱震亨客知餘論日與買惣シツカイヒエレンカウカクチヨロシニイハクソウカカホヨ

嫁不如買桃而食桃有毛亦有仁リモコテバクツヤレモニケモアリサチモアリ

自此言始作俑後世道家方士之ヨリコトハシメテヨウコウセウカハウ

徒遂和鼓雷同延及明清妓家者トツイニクハコライトウヒイテラヨホスミンセイキカ

流阿世趨好殆依樣胡盧皆以無ウニヲモノナリヨシハレリヨレミニホトトイヨウコロスミナモツテナキ

本領學問也又清馮兆張陰囊ホンリョウガクモンニダセイヒョウテウチヤウガインナウ

祕錄日其與不其與倚傍須嗅鳴ヒロクニイクソウカワリデナイカソバヘヨウテカイテミヤ

呼是調停分疏之甚也是果媚妓アコレテウテイブンソクノオホタレキコレハタレテビギ

甘言惑世誣客可畏也可慎也陶カンゲンミドハシヨラシユキヤクヲベンラソルベシツシムトウ

弘景名妓別錄引三箇津名產之コウケイガイギベツロクニヒイテカンガノツメイサン

歌日御城于惣嫁乾蕪若粹日ウタライイシツヲシロニソウカホシカブラニヤクスイガイヒク

此物出浪巷者為第一出他州者コノモノイッルナニハニモノスダイイチトイヅルタレウニモノ



亞山人ツグコレニ○偏記予少時游堀川ツグコレニ觀物惣嫁  
 引客其形立葭簾覆筵替搜往來ヒクキヤクツツノカタチタテヨシズラフヒムヒコソウウスワウライ  
ヒキコム  
 人於是丁稚棒手振之輩乘輿搞ヲライテコニゾウチボテフリノトモカラビヨウケンケウニタキ  
 盡於巾着底ツクス然而夜深人靜則一ケンチキソクヤシカレシカモヨクケヒトシツミバチイツ  
 犬吠前百犬吠後是又非此道之ケンホテヘニヒヤクケンホユレリニコレマダアラスヤニミチノ  
 患乎買者請察諸ケレヒニカウモノコフアキラカニセヨコレラ

漂游總義

○此のゆゑに室のよからしむるをわらふらた  
 くのなまてはこゝろをわらふるを利果とく  
 多岐あるべし  
 ○伽羅のいさむらてつらとてまゝく一人のな  
 張るるの形れと短衣のふくむる人のな  
 よらていやくはるゝのなり



○たまにた蘇すがななもも世せももななりりとと味  
縁えんををどどりり飛とくくハハけけりり落おちち一一かかるるれ  
ははたたいいとと女に帝ていれれ舞まいいるるををりりたたししととも  
ななりりももなないいわわののほほ一一おおももいいかかららいいてていいら  
ははああめめととああぢぢ一一

○白はくくくららうう時ときををいいてて舞まいいるるははああぢぢ一一  
舞まいいるるははいいににみみややととももああぢぢ一一  
ああわわいい十じうう八はちハハいい舞まいいるるははああぢぢ一一  
ああぢぢ一一

○大おほきき大おほきき中ちゆうををああぢぢののああぢぢ一一  
ああぢぢ一一ののくくららううののああぢぢ一一  
ううららいいののほほりりああぢぢののななりりああぢぢ一一  
ああぢぢ一一ののああぢぢ一一ののああぢぢ一一  
ああぢぢ一一ののああぢぢ一一



○一社の時家あり女らるるは月かへあやう  
 きたる女も我あゆみのあはれを  
 くるわぬはいつはうかあるあるまじく  
 見らるる一そあやう麻とほはまの  
 人ぬを静よと静はつと静のいさ  
 ○まはまあとして首さかもほめとく  
 けいばあそはけあまふなむいりあはれ

らんぢあうりせぬなり病をよとありは  
 けはらるる病の夜よと或人のい  
 ○あはれやと記はななりて社まを  
 やうみ合致くははよあかなる  
 のはらるる

○ある人りふもさむ白蛇の身なりと  
 おくハそ尾のよく何といふを



自中より小肘の喜になれ事柄し又切ぬ  
急が形をなり

○目みほつてつて居るはあつてつて居る首  
尾つらなるをたつてはつてつてつてつてつて  
おめ長居もやあつてつてつてつてつて

○一向あつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
ぬがよつてつてつてつてつてつてつてつてつて

○在はつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
は女に大つてつてつてつてつてつてつてつてつて  
まこつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
居はつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

○はつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
はつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
○老人あつてつてつてつてつてつてつてつてつて



乃おのよ女房ねをば一いよねがよ〜今の  
るにえあるべ〜

○とこふめて女房れをさうとておよてを

何よよびんみいお事らり自いざなれをぬら〜

そわお時ちとてひてお然おいていよねなりな

かこなわべいよぬ事もいよあなりい

○あらい先ろも後こ〜いよ無いれいかけれ

男の怒が何まらてお事こおよぶ〜

せねがやとてさあ〜痛い張たせればま

あうとれすとふなるあなりほれ縁が

ひりいよねなり

○おいよれ夕よごりのいよさおま乃縁いよ

ほぞね縁入〜想いえり乃事張はい縁入

子事の有りなり



○武人乃い子何ゆくのちるは女にのめをね  
ははせんたものちり

○女に乃身ぬらみ麻マヒのりともちるね  
顔がよしいふもまをた乃ハク魚イサをどとる  
事も有なり

○おなご人乃いお申志せ是然しん死しをさふ  
とうきんにおわここおははりのちりおは

人乃身かんみねああのち死しをすいた  
もねとみるやうみぬなりきざひう今いまも  
分わ別べとるな

○あるやう人乃ら尾おみなりああがらふははち  
あつ酒のひひをを一いつひひへへははち  
あつ

○はち先まと家か身みのちのやうなちもた























